

# 問題

二〇二三年度 入学試験問題

(三学部共通) 一般選抜 1期2日目

国語

時間 五〇分

## 注意事項

- 一. 試験開始の「合図」があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
- 二. 「受験票」は、机の上の受験番号票と並べて置いてください。
- 三. 試験開始・試験終了は、試験監督者の「始め」、「止め」の合図に従ってください。
- 四. この問題冊子のページおよび解答科目は、左の表のとおりです。

科目	問題ページ	備考
国語	1～10	

- 五. 解答用紙が別にあります。
- 六. 「始め」の合図後直ちに、解答用紙に受験番号のみを記入してください。
- 七. 試験室に入室してから試験終了までは退室を認めません。
- 八. 試験中に質問のある場合、または気分が悪くなった場合等には、手を挙げて監督者の指示に従ってください。
- 九. 「止め」の合図後直ちに、筆記を止めてください。
- 十. 退室は監督者の指示に従ってください。「受験票」、「問題冊子」は持ち帰ってください。

〔I〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。なお、字数指定のある問いでは、句読点・記号も字数に数える。

待たなくてよい社会になった。

待つことができない社会になった。

待ち遠しくて、待ちかまえ、待ち伏せて、待ちあぐねて、とうとう待ちぼうけ。待ちこがれ、待ちわびて、待ちかね、待ちきれなくて、待ちくたびれ、待ち明かして、ついに待ちぼうけ。

待てど暮らせど、待ち人來たらず……。だれもが密かに隠しもってきたはずの「待つ」という痛恨の想いも、じわりじわり漂白されつつある。

携帯電話をこの国に住む半数以上のひとが持つようになって、たとえば<sup>(b)</sup>待ち合わせのかたちが変わった。待ち合わせに遅れそうなら、待ち合わせ時刻のちよつと前に移動先から連絡を入れる。電話を受けたほうは、「じゃあ」と、別の用を先に片づけたり、ふとできた空白の時間を買い物や本探しやぶらぶら歩きに<sup>(c)</sup>充てたりできる。待ち時間のすきまに、コーヒーを飲みながら、ぼんやり街ゆくひとを眺めていることもできる。待ち人は苛立つこともなく、待つとはなしに時間を潰せるようになった。

わが子の誕生ですら、おそろおそろ待つことはない。母体に超音波を当てて、やがて生まれてくる子どもの性を知る。顔もほのかに判る。遺伝子まで判る。出生をじりじりと待つこともなく、先にいろいろ手を打てる。産着の準備、そして心の準備……。

ものを長い眼で見る余裕がなくなったと言ってもいい。仕事場では、短い期間に「成果」を出すことが要求される。どんな組織も、中期計画、年度計画、そしてそれぞれに数値目標を掲げ、その達成度を測らないといけない。考古学や古代文献学をはじめ、人類文明数千年の歴史の研究だって、数年単位で目標を立て、自己点検をし、外部評価を受けねばならなくなった。

外食産業やコンビニの outlet・閉店のリズムもとにかく速い。見切りが速くなり、待つてもらえなくなった。「ふるさと」の<sup>(c)</sup>たたずまいも、いつもあるものではなく、帰郷のたびに表情を変えている。

待つことができなくなったのはなにも（1）だけではない。たとえばパソコンの操作。新しい機種を知ってしまうと、ちよつと古い型のコンピュータの変換操作を待つていられない。数秒の間がじれったくなり、指が机を叩き、脚が小刻みに震えだす。テレビのコマーシャルも、

<sup>(2)</sup>シンボウでできるのはせいぜい十数秒。テレビが出たての頃は、風邪薬のコマーシャル・ソングもなんと三番まで歌っていた。いま流れるのは一曲のさびの部分だけだ。（2）なによりも、子どもが何かにぶち当たっては失敗し、泣きわめいては気を取りなおし、（3）、右往左往したはてに、気がついたらそれなりに育っていたというような、そんな<sup>(3)</sup>悠長な時間な

ど待てるひとはいなくなっている。高齢者の介護も、そう。はてしないそのプロセスのなかで「まあ、しゃあないなあ、えろう世話にもなったし、おたがいさまやし……」とついに覚悟を決めるより先に、解決のための方策をさぐっている。「いよいよか……」と血相を変えて。

かつて「待つ」ことはありふれたことだった。一時間に一台しか来ない列車を待つ、数日後のラブレターの返事を待つ、果物の熟成を待つ、酒の④ハツコウを待つ、相手が自身で気づくまで待つ、謹慎処分が解けるのを待つ、刑期明けを待つ、決定的現場を押さえるために待ち伏せる(かつて容疑者を追って、同じホテルに一年間張り込んだ刑事がいた)。万葉集や古今和歌集をはじめ、待ち遠しさを歌うことが定番であるような歌謡の手管があった。待ちこがれつつ時間潰しをすること、期待しながら不安を抱くこと、<sup>(d)</sup>そんな背反する想いが「文化」というかたちへと⑤醸成された。喫茶店はそんな「待ち合い」の場所だった。農民や漁師、そしてウェイター(まさに「待ち人」といった「待つ」ことが仕事であるような職業があった。相撲でも⑥イゴでも「待った」できないという強迫がひとを苛<sup>さいな</sup>んだ……。そんな光景もわたしたちの視野から外れつつある。

みみっちいほど、せつかちになったのだろうか……。

せつかちは、息せききって現在を駆り、未来に向けて深い前傾姿勢をとっているようにみえて、<sup>(e)</sup>じつは未来を視野に入れていない。未来というものの訪れを待ち受けるということがなく、いったん決めたものの枠内で一刻も早くその決着を見ようとする。待つというより迎えにゆくのだが、迎えようとしているのは未来ではない。ちよつと前に決めたことの結末である。決めたときに視野になかったものは、最後まで視野に入らない。頑<sup>かた</sup>なであり、不寛容でもある。やりなおしとか修正を頑として認めない。結果が出なければ、すぐに別のひと、別のやり方で、というわけだ。待つことは法外にむずかしくなった。

「待たない社会」、そして「待てない社会」。

意のままにならないもの、どうしようもないもの、じつとしているしかないもの、そういうものへの感受性をわたしたちはいつか無くしたのだろうか。偶然を待つ、じぶんを超えたものにつきしたがうという心根をいつか喪<sup>うしな</sup>ったのだろうか。時が(4)、機が(5)のを待つ、それはもうわたしたちにはあたわぬことなのか……。

(鷺田清一『待つ』ということより。ただし、一部改変してある。)

問一 傍線②・④・⑥のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線①・③・⑤の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 傍線(a)『待つ』という痛恨の想いも、じわりじわり漂白されつつある」とはどういうことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 待っても望みがかなえられなかった苦い経験の記憶が、徐々に薄れつつある。  
 イ 待ちくたびれて待つことをあきらめてしまった記憶が、少しずつ消えつつある。  
 ウ 待っても望みがかなえられなかった苦い思いを経験することがなくなりつつある。  
 エ 待てど暮らせど来なかった待ち人を恨んでいたが、その恨みも色あせつつある。  
 オ 待ちぼうけを食った過去のほろ苦い経験も、今では思い出さなくなりつつある。

問四 傍線(b)「待ち合わせのかたちが変わった」とあるが、変わった結果どうなったのか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 待ち合わせ時刻の直前でも連絡が取り合えるようになり、待ちながらいらいらすこともなくなってきた。  
 イ 遅れそうなら直前にでも連絡を入れられるので、待ち合わせ時刻に余裕を持たせる必要がなくなった。  
 ウ 待ち合わせ時刻の直前に連絡を入れられるようになったので、待ち合わせ時刻がより厳密になり遅刻は許されなくなった。  
 エ 待ち合わせ時刻はいつでも変更可能になってきたので、事前の約束時刻を気軽に決められるようになった。  
 オ 待ち合わせ時刻の変更がたやすくできるようになり、事前に時刻を約束する意味がほぼなくなった。

問五 傍線(c)「たたずまい」は文章中でどのような意味で使われているか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 風采    イ 見栄え    ウ 風格    エ 雰囲気    オ 様式

問六 空欄(1)に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 外食産業    イ ふるさと    ウ 考古学    エ コンビニ    オ 組織

問七 空欄(2)に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア だから    イ そして    ウ つまり    エ さて    オ しかし

問八 空欄（ 3 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 無我夢中    イ 紆余曲折うよよくせつ    ウ 起死回生    エ 支離滅裂    オ 不言実行

問九 傍線(d)「そんな背反する想い」の説明として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 想いがかなう期待とかなわない不安との間を揺れ動く想い  
 イ 想いの成就に関わらず、想いに反する行動はするまいという想い  
 ウ 想いの成否を考えないで、抱いてしまった矛盾した想い  
 エ 想いがかなうかどうかという悩みを断ち切ろうとする想い  
 オ 想いどおりになってもならなくても、想い続けようという想い

問十 傍線(e)「じつは未来を視野に入れていない」のはなぜか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 未来を視野に入れようとしても、結果が出なければ、すぐに別のひと、別のやり方に変えられてしまうから。  
 イ 意のままにならない未来を待つことは、わたしたち日本人には伝統的にありふれたことであつたから。  
 ウ 未来というものの訪れを待ち受けることがなく、一刻も早く決めたものの決着を見ようとするから。  
 エ せっかちに息せききつて現在を駆り、未来を視野に入れて深い前傾姿勢をとつていくようにみえるから。  
 オ 未来というものの訪れを待つことができない、強迫に苛まれる職業に就く人が増えてきたから。

問十一 空欄（ 4 ）・（ 5 ）に入る語の組み合わせとして最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 4 至る    5 及ぶ    イ 4 満ちる    5 整う  
 ウ 4 達する    5 熟す    エ 4 至る    5 整う  
 オ 4 満ちる    5 熟す

問十二 この文章の要旨をまとめた次の文の（ア）・（イ）に入る語句をそれぞれ指定された字数で文章中から探し、記入しなさい。

わたしたちは、いつか（ア 十一字）への感受性を無くし、（イ 九字）につきしたがうという心根を喪い、「待つ」ということができなくなった。

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。なお、字数指定のある問いでは、句読点・記号も字数に数える。

現在、視覚、聴覚を刺激するメディアは非常に発達してきている。テレビ、携帯型音楽プレイヤー、スマートフォン、パソコン、各種のゲームなど、「見る」「聞く」に対する刺激はどんどん増える方向にある。

一方で、触ることや嗅ぐことに関しては、今まであまり注意を向けずに来たのではないだろうか。しかし、紙の本の肌触りや香りは、文章の中身を理解し、記憶するのにも役に立っている。

幼い頃、やつと目当ての本を買いに行き、新刊の香りを嗅ぎながら、折り癖のない新品の本を開いた時の、幸福感を覚えている人も多いだろう。<sup>(a)</sup> 紙の本の読書体験は、本を開く前から始まっており、その触り心地やにおいの記憶自体が、作品世界に影響を与える。

そして、<sup>(b)</sup> 我々は「めぐる」ことによって、さらに読書を「体験」していき、本にはその痕跡が残るのである。

たとえば何度も参照するページには、開き癖がついたり、ページの端を三角に折ることがあるだろう。悲しい場面では涙の跡ができ、大笑いをして思わずコーヒーを溢し、茶色いしみを作ったことがあるかもしれない。幼い頃の絵本には、クレヨンの落書きを見つけたことがあるだろうし、久しぶりに開いた本からは、<sup>(c)</sup> 葉代わりに挟み込んだチケットや、絵はがきなどが見つかるという体験をした人もいるだろう。

以前、鉛筆で線を引いた箇所が、再び開いた時に、自分の目に飛び込んでくることもあるし、章立てしてある参考書は、その項目が本のどこに書いてあるかを頭に入れることで、その分野の全体像の把握にも役に立つ。

些細で意識もしていないが、実は紙の本に触れることによって得られる周辺の記憶や<sup>(d)</sup> 痕跡すべてが、文章の理解や記憶に影響を与え、(1)。

印刷用紙には、用途に応じていろいろな種類がある。たとえば辞書に使われる紙は、極限まで薄く、いくら使っても破けないという<sup>(e)</sup> 耐久性が特徴だ。しかも静電気を帯びないように、特殊加工が施されており、高い技術が要求される。

雑誌に使われている用紙は、読んでいて<sup>(f)</sup> 楽しさや、面白さを体験できるものであることが求められる。最近よく好まれているのは、紙が厚くて、しかも柔らかく、高級感のあるものだろう。読者はめくった時の快楽を無意識のうちに求めているのだろう。

(2)、雑誌には、たいいてい異なる手触りのページが何種類か含まれている。

雑誌の中に挟み込まれた、異なる質感の紙をアクセントページという。これは「ここから違

う特集が始まりますよ」という合図であるとともに、異なった「めくり感」を出すことで、新たな興味を抱いてもらうという演出である。同質の紙ではやがて飽きてしまう。そこでアクセントページの、指先から脳に伝わる異なった（3）が、未知のものへの好奇心をそそのめるのである。

文芸の書籍には文芸の紙の選び方というものがある。<sup>注一</sup>装幀家や編集者は、<sup>③</sup>ゲンコウに目を通し、作品の中身を咀嚼<sup>そじやく</sup>したうえで紙を選ぶ。

どんな紙を本文に使い、どんな素材感のカバーにするかが、作品世界の印象を決定づける。そのバランスは極めて<sup>④</sup>センサイなものだ。高級紙だから上品に仕上がるとは限らない。白色度が高ければ<sup>⑤</sup>サワやかになるとも限らない。触り心地、光沢も相まってその本に個性を出し、より深い印象を読者に与え、作品の世界観を創りだしているのである。

中には本の仕上がりの美しさを追求して、わざわざ工場に出向き、要望を伝える編集者もいる。<sup>(d)</sup>嵩<sup>かさ</sup>が高ければ、高級感があるが、今度は張り（「パリ感」と現場では呼ぶ）が強くなってしまう。あまりにパリ感が強いと本を開いた時に、美しい形にページが重ならない。

聖書を作りたいという編集者の注文はこうだった。「<sup>(e)</sup>水牛の角のような形に、弓なりに美しく開く本がほしい」

工場の技術者畑中は、嵩高と柔らかさという、相反する要望に応えるために、何度も紙を作り直して研究を重ねた。ユーザーは、感覚でオーダーをする。「品のあるものを」と。では、その品とは何か。それを突き詰めて考え、形にするのが技術者たちの仕事なのである。

光沢や色にも流行がある。<sup>注二</sup>被災当時、東京の営業部に在籍していた加藤俊（31）は昨今の<sup>(f)</sup>トレンド<sup>(f)</sup>についてこう話す。

「ひと昔前には、光沢があればあるほどいいという時代がありました。しかし<sup>⑥</sup>次第にピカピカしすぎるのは品がないという風潮になり、自然な光沢や風合いが好まれるようになったんです。車や鉄道などのようにメタリック感が求められるものを除いて、多くがナチュラルな光沢に移行しつつあります。また書籍の色についても流行があつて、以前はクリーム色がかつたものが主流でしたが、ここ数年はホワイト、スーパーパーホワイトも人気が出てきた。時代が明るいものを求めているのではないか、と思いますね」

また<sup>注三</sup>8号の憲昭<sup>のりあき</sup>は言う。

「何年前だったかな、教科書で使われるような青味がかつたものがよく出ました。これはヨーロッパで好まれている色なんですよ。でもヨーロッパと日本ではやっぱり光の加減も感性も違う。最近ではナチュラルな方向へ変わりつつあります」

製紙会社には、紙の作り方を記した門外不出の「レシピ」と言われるものがある。表面の仕上げに使う薬品など、それぞれの紙の仕上げ方は、長年の研究の上に積み上げたものである。



<sup>(g)</sup>それらもまた、知的財産としてそれぞれの工場内で伝えられている。しかし、「レシピ」だけでは完璧に仕上げることができない。最後の微妙な塩加減が料理人の腕にかかっているように、技術者たちの微調整が完璧な紙を作り上げているのである。

(佐々涼子『紙つなげ！ 彼らが本の紙を造っている 再生・日本製紙石巻工場』より。

ただし、一部改変してある。)

注一 装幀家——表紙やカバーなど、本の外観をデザインする職業。

注二 被災当時——二〇一一年の東日本大震災当時のこと。この文章に記されている日本製紙石巻工場は、この震災で大きな被害に遭った。

注三 8号の憲昭——日本製紙石巻工場8号抄紙機のリーダー、佐藤憲昭のこと。

問一 傍線③・④・⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線①・②・⑥の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 傍線(a)「紙の本の読書体験は、本を開く前から始まっており」とあるが、それはどのようなことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 我々が「めくる」ことによって、読書を「体験」すること。

イ 目当てにしていた新刊を買って、自分の手にすること。

ウ 幼い頃の開き癖やページの端を三角に折ったあとが見つかること。

エ 紙の本の肌触りや香りで、文章の自身はだいたいわかること。

オ 触り心地やにおいの記憶自体が、作品世界に影響を与えること。

問四 傍線(b)「我々は『めくる』ことによって、さらに読書を「体験」していき、本にはその痕跡が残る」ことを説明している部分を文章中から探し、はじめと終わりの五字を記入しなさい。

問五 空欄（ 1 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 我々に思いも寄らぬ感情をもたらすのである
- イ 我々に一層深い印象を刻みつけるのである
- ウ 我々は何度も何度も読み返したくなるのである
- エ 我々の読書生活を刺激的なものに変えるのである
- オ 我々と紙の本との関係をより親密にするのである

問六 傍線(c)「楽しさ」の文法的な説明として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 形容詞「楽しい」の語幹「楽し」に、接尾辞「さ」が付いて、名詞化したもの。
- イ 形容詞「楽しい」の未然形「楽し」に、格助詞「さ」が付いて、名詞化したもの。
- ウ 形容詞「楽しい」の終止形「楽し」に、終助詞「さ」が付いて、名詞化したもの。
- エ 形容動詞「楽しい」の連用形「楽し」に、接尾辞「さ」が付いて、名詞化したもの。
- オ 特別な活用をする形容動詞「楽しい」の終止形が、名詞化したもの。

問七 空欄（ 2 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア つまり イ しかし ウ ところで エ あるいは オ ただし

問八 空欄（ 3 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 感性 イ 快感 ウ 感動 エ 触感 オ 接触

問九 傍線(d)「嵩が高ければ」とあるが、「嵩が高い」とはどういうことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 紙が美しいこと イ 紙が分厚いこと ウ 表紙が分厚いこと
- エ 本が分厚いこと オ 高級紙を使うこと

問十 傍線(e)「水牛の角のような形に、弓なりに美しく開く本」に仕上げるには、どのような紙にするか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア ある程度のパリ感と光沢をもった紙にする。

イ 嵩が高く高級で上品な仕上がりの紙にする。

ウ パリ感をおさえて、手触りのよい紙にする。

エ 嵩と柔らかさとの両面を満たした紙にする。

オ 触り心地がよく、かつ光沢のよい紙にする。

問十一 傍線(f)「トレンド」とほぼ同じ意味で使われている文章中の語はどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 昨今    イ 風潮    ウ 流行    エ 時代    オ 移行

問十二 傍線(g)「それら」とは何か、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 最高級の紙の作り方を記した門外不出の「レシピ」

イ 紙の表面の仕上げに使う薬品の作り方などの「レシピ」

ウ 技術者たちが作り上げた紙作りの最後の微妙な調整

エ 紙作りで表面の仕上げに使う門外不出の薬品

オ 長年の研究の上に積み上げたそれぞれの紙の作り方

国  
語

解  
答  
用  
紙  
一

[I]

		問十二	問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
イ	ア											①	②
												てたり	
												③	④
												⑤	⑥

受験 番号		★
----------	--	---

国  
語

解  
答  
用  
紙  
二

〔Ⅱ〕

問十二	問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
										①	③
										②	④
								}		⑥	⑤
											やか

受験 番号		★ ★
----------	--	--------